

令和 7年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

広南中学校区 校番2 学校名 広南小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアコントロールを1日2時間以内にするのは無理がある。2時間という時間のめやすから使い方をめやすにして、本当の意味でのメディアコントロール、良い使い方にしてはどうか。 ・就寝時刻を一律に設定しているのには無理があるようにも感じる。 ・達成値、達成度が100%以上になっているものについては、その取組の成果を大事にしつつ、さらなる前進拡充内実化に向けた迅速かつ慎重なる目標、指標の研究、検討が必要と思われる。 ・教師の一方的な教えではなく、自主性と協調性を重視した授業改善は、将来必要な力を養っていくために役立つと考える。
目標達成のための方策の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な方策や、家庭・地域や中学校との連携をした取組が考えられていると思うが、方策の趣旨が家庭や地域にも浸透し、それぞれの立場での効果的な実践につながることを願う。 ・先生方が工夫して授業をしたり、活動できるようにしたりすることで、子どもたちが成果を見せてくれている。 ・予習から児童の課題を大切に授業づくりは、学び合い、教え合いにつながり、学力調査の結果からも明らかである。 ・深い学びにつなげるために、道徳の授業を中心に据えていることは妥当であると思う。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・結果と課題を指標ごとに丁寧かつ具体的に分析している。 ・授業参観をしてみて、どの学級も先生と児童の関係の良さや、全学年を通しての成長を感じることができた。 ・道徳科では、学びを深化させる取組や新たな取組を進めている。 ・防災に関する取組は、家庭・地域や中学校との連携を密にして実施できている。そのことで、自分の命は自分で守ることが浸透できた。 ・就寝時刻については、各家庭で15～30分早く寝るためにはどうするかという課題を設定するのも有りなのではなか。
今後の改善策(案)の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・知・徳・体いずれも課題を明確にした改善策が示されている。 ・メディアコントロールの課題は、全国的にも難しい問題で、家庭の教育力が大きな要因と考えられる。粘り強い学校からの啓発の積み上げが、これからの取組になる。 ・異学年交流の取組は、あこがれの上学年が模範・手本となり、夢と希望をかなえてくれる。 ・体力面で遊びを含めてのびのびと運動の楽しさを教えていただきたい。 ・学校の外遊びや放課後の外遊びに関しては、地域の見守り活動の助けを借りるの必要かなと思った。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・目標設定から改善策まで一連の堅実な取組に敬意を表する。 ・「学校評価」が日々の実践、活動、生活の中で共有され、学校・家庭・地域の教育ネットワークに真に生きるよう、その在り方を工夫してほしい。 ・夢と希望の実現は学校教育・地域・行政が力を合わせることでできる。そのために、学校・地域が力を出し合い、協働していきたい。 ・先人のすばらしい生き方が地域にある。子どもたちに受け継いでいきたい。 ・総合学習は、地域とコミュニケーションを取り、自然・防災を学ぶ機会として成果があったと思われる。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムのチェック項目の1つ「メディアコントロール」について、これまでは2時間以内という時間を指標にしていたが、メディアの使い方について指標にできないかを校内で再検討する。 ・達成値、達成度が100%以上になっているものについては、目標値を上げるなど、来年度の目標設定時に向けて検討する。 ・改善策にあげた内容を実践していくため、教職員が共通認識をもって組織的な取組を推進していく。 ・学校での取組が家庭・地域に浸透し、それぞれの立場での効果的な実践につながるような手立てを検討する。 ・学校運営協議会が学校・家庭・地域の要となるようにというご意見をいただいた。協議会委員の皆様との協働的な運営を進めたい。
--------------------	---